



TITLE:

スミスの名、其生涯、及其學說等  
を早く我國に傳へたる蘭文經濟書  
(アダム・スミス生誕二百年記念號)

AUTHOR(S):

武藤, 長藏

---

CITATION:

武藤, 長藏. スミスの名、其生涯、及其學說等を早く我國に傳へたる蘭  
文經濟書 (アダム・スミス生誕二百年記念號). 經濟論叢 1924, 18(1):  
329-369

ISSUE DATE:

1924-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128107>

RIGHT:

# 會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第 卷八十第

號念記年百二誕生スミス・ムダア

## 口 繪

スミスの肖像・筆蹟・國富論初版扉・記念會寫眞

スミスの生涯

スミスの肖像・筆蹟・國富論初版扉・記念會寫眞

道徳的價值判斷に關するスミスの思想

法學士 恒藤 恭

國富論の研究方法来に就きて

法學博士 財部 靜治

スミスとコンヂアツクとの價值論

法學博士 田島 錦治

スミスの所謂「眞實の價格」について

法學博士 河上 肇

スミスの價格論と分配論

經濟學士 谷口 吉彦

スミスの自然主義觀と自由政策の見地

法學博士 河田 嗣郎

スミスの自由放任論の特徴

經濟學士 堀 經夫

スミスの自由貿易觀

法學士 作田 莊一

スミスの對植民地策

法學博士 山本美越乃

スミスの租稅原則

法學博士 神戸 正雄

スミスの公債論

法學博士 小川郷太郎

スミスと浪漫派經濟學

法學士 山口正太郎

スミスの名其生涯及其學說等  
を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

商學士 武藤 長藏

## 書目

スミス關係書目 (細目裏面を見よ)

經濟學博士 本庄榮治郎

## 記事

スミス記念會記事

經濟學博士 本庄榮治郎

スミスの名、其生涯、及其學說等を早く

## 我國に傳へたる蘭文經濟書

武 藤 長 藏

Her Werk van Adam Smith is, a s ieder menschelijke arbeid, niet vrij Van gebreken

(E. W. De Rooy, Geschiedenis der Staatshoudkunde in Europa, P. 262.)

蠻人は、風流すくなきものにて、諸事有益第一とするものなり。學問杯にても、まづ醫を學ぶ。是人の急なる所なればなり。次に經濟を學ぶ。是生々の元なればなり、次に天文地理を學ぶ。彼國の王風なればなり。神佛などの沙汰なし。只天を拜するなり。(廣川憐著 長崎開見錄卷之四蠻人の學問)

### 目 次

#### 第一章 緒 論

第二章 アダム・スミスの名、其生涯、及其學說等を早く

我國に傳へたる、ド、ロワイ氏歐洲經濟學史

第一節 ド、ロワイ氏歐洲經濟學史著述出版の由來及

著者の略傳

第一款 著述出版の由來

第二款 著者の略傳

論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

(附考) ド、ロワイ氏經濟學史の名を掲げ又は載せ

ざる經濟學史參考書

第二節 ド、ロワイ氏歐洲經濟學史中アダム・スミス

に關する記事

第一款 スミスの名と其生涯

第二款 スミスの學說

第三章 西洋經濟學に關する書物として早く我國に傳はり

し圖書

第十八卷 (第一號三三九) 三二九

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる論文經濟書

第一節 經濟學原論及學史等

第二節 貨幣及銀行論

第三節 財政學

第四節 經濟學及統計學雜誌

第五節 百科全書辭典等に載する經濟學に關する記事

第十八卷 (第一號 三三〇) 三三〇

第四章 結論

(1) 靜岡師範學校所藏下、ロイ氏著歐洲經濟

學史第二卷の扉

(2) 同書第四百八十二頁

(3) 同書第四百八十三頁

## 第一章 緒論

### 一

アダム・スミス (Adam Smith) 生誕滿二百年を迎へ我經濟學界も亦これを記念するに當り第一に予輩の念頭に浮ぶはアダム・スミスの名、其生涯、及其學說を最も早く我國に傳へたるものと思はるゝ書物は何なりや蘭書なりや英書なりや或は佛蘭西書なりや又今より約何年前頃よりスミスの名と其生涯及其學說等は我國に傳はりし乎てふ問題は也。こはまた我國に於ける西洋經濟學傳來の歷史上重要な問題なる可し。

法學博士福田德三先生は其經濟學考證第七篇十七世紀和蘭經濟學說一斑殊に商國主義の學說第一章十七世紀に於ける和蘭經濟學說と日本經濟學說中に記して曰く

慶應明治年初の間に於て或はイリスの重譯或はリエーランドの翻譯(前者は神田孝平氏の「經濟小學」後者は小幡篤次郎氏

の「英氏經濟論」を得て始めて（恐らく）西洋經濟學の新認識に接し額に手して之を歡迎したる我邦は………  
若し千七百五十二年以前に於て即ち我等が徂徠の政談、春臺の經濟錄（千七百二十九年）を有したる時に於て長崎出島に來船せる和蘭東印度會社の船が和蘭經濟書の一冊を齎らし來れることありとせんか………

右引用せし福田博士の論文は予に大なる刺撃を與へたり又法學士本庄榮治郎氏の論文「徳川時代の經濟學者本多利明の研究」（最初經濟論叢に現はれ其後岡氏著經濟史研究に收録）及其論文「中本多利明と洋學の影響に關する本庄氏所說に就て福田博士の質疑（經濟論叢第三卷第一號所載）」それに對する本庄學士の答辯（同論叢第三卷第二號所載）等を讀み且又それに對する文學博士内田銀藏先生<sup>1)</sup>の意見を伺ひし事あり。そは同博士永眠前數ヶ月福岡に出張され居りし當時大正八年四月の事なり。右福田博士内田博士及本庄學士の所說を聞き明治以前徳川時代我國に傳はりし蘭書特に經濟に關係ある書物に就て予の探究の熱は其當時より一層高まりて今日に及べり。

（附註）本多利明（1741-1801）と洋學の影響に就ては本稿に於て論及せず。

予は豫て明治以前徳川時代我國に傳はりし蘭書特に商業經濟法律政治歷史地理航海鐵道電氣辭書等に就て探究に志し東京靜岡京都佐賀長崎等に現に保存され居る蘭書の幾分を見るを得たり。而して蒐集したる材料に基き研究をこれまで公表したるものは未だ少なく拙稿「邦語ノ植民ナル名辭ハ蘭語ノ譯ナリトノ說」<sup>2)</sup>（國家學會雜誌第三十一卷第十二號）「銀行ナル名辭ノ由來」<sup>3)</sup>（國民經濟雜誌第二十四卷第二十五卷連載）「明治以前長崎に傳はりし蘭文簿記書」<sup>4)</sup>（國民經濟雜誌第三十卷第一號所載）並に大正十年鐵道

# 論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷（第一號三三一） 三三一

1) 内田銀藏氏著「近世の日本」附錄三「本多利明」參照  
2) 内田博士著「近世の日本」附錄四「コロニー」の譯語としての開國參照  
3) Palgrave 氏編經濟學字典第一卷所載 W. Ellis の略傳中其著書の出版は 1846 年也と記されど神田氏が經濟小學中記する處によれば英文原書の出版は「我嘉永庚戌の歲戊辰即ち嘉永三年（1850）となる、從て Palgrave 氏編經濟學字典の記する處と同じからず。此 Ellis の事は J. S. Mill の自叙傳にも記述す  
4) 神田孝平略傳所載年譜參照

譯語としての「經濟學」の由來に就ても未だ考證文を發表したる事なし。

〔附註三〕弘化二年(1845)刊行箕作寬、省吾著、坤輿圖識卷四下共和政治州總説の部に「各國學校ヲ設ケ日々ニ經濟ノ學ヲ誦  
ズ」と記す。

京都の醫師廣川樞は寛政七年（乙卯）の春第二回目に長崎に遊び居る事三年の後京都に歸り寛政九年（丁巳）初春の序文ある長崎聞見録を著し其卷之四「蠻人の學問并三堂の事」と題するうちに本論文のはじめに引用せしが如き句を述べたり。其文中に所謂「經濟を學ぶ是生々の元なればな

5) 但し神田孝平路使所載年譜には神家氏長崎遊學の記事なし長崎遊學前に安政四年  
の頭神田氏は江戸に記す。長崎の砲術家島崎以三郎氏を訪ひ洋學の必要を感ずるに長崎  
の事神田氏とあれど同伴して長崎に遊學せしにあらず(福翁自傳參照)同時代  
の事や意味瞭然とす

6) 治政典範蘭州法入法、性法 略等 (J. S. Mill) 著論理學に據り立論せる「致知者  
明治七年明六社に同入同年蘭爾氏

り」の意義に就ても今茲に深く論及せずただ興味ある一句なれば引用せり。

## 二

さて前に引用せし福田博士の論文の中に同博士が西洋經濟學を始めて(恐らく)我國に傳へたる書物なるべしと推測されたる慶應三年(西曆一八六七年)新彫神田孝平氏重譯「經濟小學」の原本たる英國人義里士氏(William Ellis) (1800-1881) 英文原著 Outlines of Social Science (一八四六年出版)又蘭文譯書も今現に我國圖書館又私人の所藏するものあるを聞かず、神田孝平氏(明治三十一年男爵を授けられ、同年七月五日薨す時に六十九歳<sup>4)</sup>)養嗣男爵神田乃武先生に數年前予は質問して經濟小學の原本(蘭譯書又は英文原書を一覽せん事を求めしに同家に今現に保存され居らざる由を聞けり。

(附註)神田孝平氏と經濟學との關係に就て注意すべき事は神田孝平略傳に據れば同氏が嘗て福澤諭吉氏と俱に長崎に遊學し<sup>5)</sup>、崎人某に就き和蘭語文典を學び蘭語に通ぜし事並に數理經濟に長じ維新の際早く國家經濟に注意し蘭譯經濟書を重譯して經濟小學を刊行したる外政治法制學星學等の著述翻譯を出しし事又明治六年豫有禮氏學者を集めて明六社を組織するや箕作秋坪福澤諭吉中村正直西周杉亨<sup>6)</sup>二西村茂樹加藤弘之<sup>7)</sup>津田真道氏等と共に盡力し明六社員となり同社が明六雜誌(明六とは明治六年の意但し雜誌は明治七年より發行せり)を刊行するや神田氏は財政政治經濟(貨幣論其他)等に就て論文を寄ぜたる事は也。

## 三

次に米人英氏即ちウェーランド氏(Francis Wayland) (1796-1856) 著「經濟論」(The Elements of Political Economy)<sup>12)</sup>は慶應三年の春渡米したる福澤諭吉氏により我國に携歸られたり、そは何

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號三三三) 三三三

蒙)を著す、十年「利學」成る。

8) 杉亨二氏は長崎人也(後年靜岡縣士族となる)開成所在任中スマチスツクに志す。(杉亨二自叙傳)

9) 慶應元年「交易」を著す(加藤弘之自叙傳)

10) 津田真道氏は西周氏と共に文久三年(1863)和蘭レイデン(Leyden)に留學せし人也泰西國法論の著あり

11) 神田孝平氏遺稿「淡崖遺稿」参照

年版なりや一八五六年の第四版なりや一八三七年出版のこの書の第一版は福澤先生生誕以前の出版也。これ同書の我國に傳はりたる始めなるべし(この書の第一版は千八百四十八年出版の「S. ミルの經濟學原理より十一年前に出でし也」)。福澤氏は又英氏 (F. Wayland) の修身論 (The Elements of Moral Science) を得て之を研究し尙福澤氏は同氏の所謂「チャンブル」氏「エコノミー」<sup>13)</sup> 西洋事情の翻譯に従事し社中小幡氏兄弟を始めとして數名の同志夜となく日となく此を談し彼を話して餘念なかりしと云ふ(福澤全集卷四福澤文集二編卷之一第二十六頁參照)

さて英氏經濟論は其一部は福澤氏と親しかりし長崎人福地源一郎氏により翻譯せられ又慶應義塾の小幡篤次郎氏により翻譯せられ長崎人何禮之氏により抄譯されたる事を一言せざるべからず。

(附註) 福澤氏は長崎及大阪にて最初蘭學を勉め後英學に轉ぜし人なるが江戸に慶應義塾を開き米人ウエーランド氏著經濟書を明治元年五月十五日上野戰爭の當日平然として講義しつゝありし事は著名なる話なり。

明治三年長崎人福地源一郎氏譯明治四年辛未九月大藏省出版の會社辯は前述べウエーランド氏著書中所謂會社篇(實は Bank) を骨子として英人ミル蘭人ニーマン氏 (Nemman) の人の書未だ見たる事なし) の經濟書を參酌したるものなるがウエーランド氏經濟書の翻譯は明治四年以降慶應義塾の小幡篤次郎氏の試みし處也。<sup>14)</sup> (小幡氏は千八百七十年版を翻譯せし事を凡例に記す。靜岡師範學校には同版本を所藏す) 其所謂英氏 (Wayland) 經濟論卷之二分業論の部に分業の利益の第四中「Adam Smith を亞當武須美集と當字し英國ノ人ニシテ「ウイルス、オフォネエション」ト云フ經濟書著者シタル人ナリ」註釋す。<sup>15)</sup>

明治五年壬申正月瓊江何先生譯(長崎人何禮之氏)世渡の杖一名經濟便覽一卷はウエーランド經濟書の抄譯也。<sup>16)</sup>

12) 此書の初版は紐育1837年(我天保八年)出版也氏は米國 Brown 大學總長又道德哲學の教授たりし人也其小傳は Say 及 Chantley 共編經濟學新字典に載す氏は外に The Elements of Moral Science の著あり其 Boston 1863 年版の長崎廣運學校圖書之印信あるもの長崎商業學校に現存す氏は Elements of Intellectual Philosophy なる著あり其 N. Y. 1856 年版は予之を藏す。同氏著經濟書第四版(1856年版)の我國に輸入されしもの現存するが如し(義塾學報第179號所載福田博士講演參照)



以上述べ來りたるウェーランドの經濟書と相次で我國に輸入されたる英米出版の英文經濟書種々あり其等は夫々或は翻譯せられ或は讀まれたり。<sup>10)</sup> (經濟學史上名もなき英人 J. T. Chaplin 著 Lesson in Political Economy N. Y. 1868 の如き大學南校の捺印あるものを予) されど多分英米出版の英文經濟書に先立ち又幕末輸入されたりと思はるゝ(但し或書物は明治以後の輸入) 蘭文經濟書ある事は本稿第三章中に掲ぐる蘭文の經濟書(1)經濟學原論及學史(2)貨幣及銀行論(3)財政學(4)經濟學及統計學雜誌等に就て節を分ちて考證探求したる處により察知するを得べし。

西洋經濟學に關する智識、アダム、スミスの名其學說等が支那を通じて我國に傳はりし場合ある事、支那に出版の經濟學に關する書物(支那にては Political Economy 又は Economics の譯名は經濟學の外に計學理財學又は國計學國貨學等あり) を我國にて翻譯和譯せし實例の存在又アダム、スミスの名を支那にて亞丹、斯密と當字せしと同じく我國往年の著書にも其例あるは偶然の一致にあらずして支那より傳はりたるものならずや等注意すべき問題也。されど此種の問題は他日に譲り本論には深く論及せざるべし。

アダム、スミスの分業論 (Of the Division of Labour) の一節は原文の儘、明治二二年刷行駿州沼津の無盡藏版「經濟說略」(The Compendium of Political Economy from the Lesson Book. Edited

論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三三五) 三三五

13) 西澤事情外編卷之一に據る慶應三丁卯季福澤論吉氏題言參照  
 14) 福翁自傳中崎進之傳代ぐる部に應氏は安政元年二月福澤論吉氏題言參照  
 15) 國民經濟志しし事録第二十四卷(其二)參照  
 16) 來ニ就テ」(其二)參照

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三三六) 三三六

by Watanabe & Co. At Numads, Maige 2nd) Lesson XII Division of Labour. の題するごとくに

Observe the accommodation of the a most common artificer or daylabourer

以下第一編 (Book I) 第一章 (Chapter I) の終りまで抜萃せり。この部分は明治七年文部省出版西村茂樹氏譯經濟要旨下卷第十二分業の部に其翻譯あり、即ちアダム、スミス分業論の一節は西村氏により早く翻譯されたるは注意すべき也。田口卯吉氏の經營せし經濟雜誌社發行尺振八氏關石川映作氏譯富國論 (原名ウエルス、オフ、ネーションス) は明治十六年版權免許なれば後年の事也。

五

若し夫れアダム、スミスの名、其生涯及其學說等に就て記述する經濟書として予が大正十年夏靜岡師範學校に現に保管され居る多くの蘭佛英獨書籍中より發見したる蘭人 E、W、ド、ロイ氏 (E. W. De Rooy) 氏著蘭文歐洲經濟學史 (Geschiedenis der Staatshuishoudkunde in Europa, Van de Vroegste Tijden tot Heden) に至りてはたゞに早く我國に輸入されたるのみならず實際其部分の何人かによりて早く通讀せられたる形跡ある事は其等の部分の疑問ある個處 (同書第四百八十二頁及第四百八十三頁の寫眞參照) に紅唐紙の貼付しある事により明也。

予がこの論文のはじめに引用せし

Het Werk Van Adam Smith is, als iedere menschelijke arbeid, niet vrij van gebreken

- 16) 明治六年再刻英氏經濟初編三編出づ  
1856年の第四版我國に輸入され居る事は慶應義塾新築圖書館開館記念號所載福田  
博士の講演「ブリオン、コンミチー」及び「リカルド」中に見ゆ
- 17) スミスの自由貿易論に對立してケリー (H. C. Carey) 氏の保護貿易論の岡田好  
樹氏の翻譯 (經濟之理明治七年六月) によりて紹介されたる事は本庄教授が大正十二  
年六月四日の大阪朝日新聞所載「アダム、スミスと日本」の内に指摘されたる  
處なるがその岡田好樹氏は長崎人也

なる句は實にド・ロイ氏(F. W. De Rooy)著歐洲經濟學史(Geschiedenis der Staatshuishoudkunde in Europa)第四百八十二頁の其紅唐紙の貼付しある部分の一節の句にして其意味は

スミスの著書は謬謬なしと云ふを得ずこれ實にすべての人間の勞作に免がれ難き事也

とも譯すべき個處也。

さてこの書の扉には西曆千八百五十一年(我嘉永四年)アムステルダム出版とあり(出版年頃の考證は本論文第二章第一節第一款著述出版の由來の部參照)而してこの書が我國に輸入されたる年は明ならざれど開成所の捺印あり而して江戸の開成所なる名稱は文久三年より明治二年まで繼續せし故其間はこの書が開成所に所藏されたるものなるべし。

(附註) 洋學所は安政三年二月番書調所と改り文久二年洋書調所と唱替へ文久三年九月二日洋書調所へ改めて開成所と唱ふ。明治二年開成所は大學南校と改稱す

右は江戸の開成所より明治維新の際徳川氏と共に静岡に移されしものなるべし、而して静岡學校の藏本となりしはこの書第二卷(下卷)扉の「開成所」の印を消して其上に「静岡學校」の捺印あるにより明也。この書の第壹卷(上卷)は今現に静岡師範學校に傳はり居らず、第二卷(下卷)のみ存し其下巻にスミスの生涯及其學說の部を載す。

(附註) 一、静岡學校は明治二年に駿府學校の改稱せられしもの也静岡師範學校は明治八年の創設也静岡學校の前身駿府學校は明治元年創設也。

## 論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる處文經濟書

第十八卷 (第一號三三七) 三三七

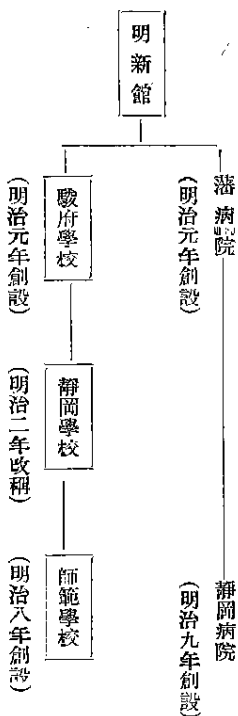
- (18) 何禮之氏は Montesquieu 氏萬法精理 J. Bentham 氏民法論綱等の翻譯あり  
(19) J. S. Mill 原著林義順譯經濟論、Climber's Information for the people, Vol. II 所載 Political Economy の部、謝越國譯經濟論、(百科全書收錄) James E. Thorold Rogers 原著泰西經濟新論等  
(20) C. M. Lacey Sites 著理財要範  
(21) 英華字典(1868年香港出版)には Political Economy を國寶學又治國之法、治國之綱等の譯あり

論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三三八) 三三八

今靜岡師範學校にて調査せし靜岡に於ける藩學系統を示さば左の如し (明新館の事は大正十年に靜岡久能山の宇都宮氏より傳聞せし事あり)



(附註) 二、日本教育史資料卷二東海道舊靜岡藩學制

明治元年八月十五日徳川家達本地到着其九月八日左ノ布令アリ

今般四ツ足御門内御定番屋敷ニ於テ御國學漢學洋學共御開相成候ニ付有志之者ハ自分ノ貴賤ニ限ラス出席修業イタシ候様可被致候……………

九月

十月十二日學校移轉ニ付左ノ布令アリ

元御定番屋敷ヲ學問所ト相違置候處御都合モ有之候ニ付横内御門元勤番頭屋敷ヲ以來學問所相定……………

十月

十一月五日洋學開校ニ付左ノ布令アリ

今般府中學問所ニ於テ英吉利佛朗西和蘭獨逸四ヶ國之學問來十五日ヨリ御開相成候ニ付御領地内武家社家出家用百姓町人并其子弟厄介召仕等ニ至ル迄志アル輩ハ學問所へ罷越稽古可致事但書物無之者ハ於御場所可承合事

(日本教育史資料一第百八十三頁)

22) 1847年米人鮑留雲氏原著漢譯「致富新書」の和譯中嶋讚井両氏譯致富新論譯解 (明治八年) 參照  
 23) Adam Smith's Wealth of Nations の嚴復氏漢譯「原富」 H. Fawcett 氏 (法思德) の經濟書を漢譯せし「富國策」にはスミスを斯密又は斯美と當字す。明治十七年版唯免許の大養教氏主氏經濟學には亞瑞斯美と當字せり。明治二十四年出版博文館世界百傑第拾貳編北利紫山氏亞當斯密の略傳

此書を讀みたる人は西岡氏又は神田孝平氏等ならずや(此書は Ellis 氏又 Wray and 氏の經濟書より先に輸入されたるや否やは不明)此書は西岡氏津田真道氏等が持歸りしものならずや  
長崎の門戶を通じて蘭國より輸入されしものにあらざる子は推測す、長崎へ輸入されし事明なる書物は長崎東荷官許と云ふ檢閱済の印あり、長崎高商研究館年報「商業と經濟」第二册所載截稿「鐵道に關する智識の我國に傳はりし門戶さしでの長崎」第二百五十六頁參照

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號三四〇) 三四〇

版され居らざりし由なれど(此書の緒言参照)同氏の著書より少しく早く一八五一年 Motter 氏の經濟學史出版せられそれに次で同氏の著書現はれたり此書出版年度は此書の扉には一八五一年とあれブルマンズ(Brugmans)氏編和蘭人名字典には一八五一年及一八五二年二巻とせりA. van der Aa 氏和蘭人名字典も同様也、予が丸善書店を経て和蘭より本年八月二十六日入手したる此書は靜岡にあるものと異り第一巻と第二巻に分れずして合本せしもの也而して其扉には千八百五十一年とあり。

今左にこの著述出版の由來に就て著者及び此著に序文を草せし人の所説を掲ぐべし。

- (1) F. W. De Rooy 氏は其著歐洲經濟學史に千八百五十一年(我嘉永四年)十二月附にて緒言(Voorbericht)中に述べて曰く

昨秋予が經濟學史の著述を思立ちし頃和蘭語にては其種類の著述全く無かりき。著者は最初ブランキイ(Blanqui)の經濟學史(Histoire de l'Economie Politique)を翻譯せん考ありしが元來予がこの著述をなすは我和蘭人に讀ませむ爲めなるにブランキイ氏は我和蘭の經濟學說に就ては殆んど云ふ處なし<sup>29)</sup>然るに我和蘭は經濟學史上著明なる學者を有せざるにあらす經濟學思想の傳播に貢獻せし學者として和蘭の學者ヒーター、ド、ラ、クール(Dr. de la Cour)の著述を必知し得んやBlanchiの經濟學史は十七世紀に於ける英國の著者に就て記述すれど十八世紀に於ける伊太利の經濟學者の著述學說系統に就て殆んど云ふ處なきは如何。

予が Blanchi の經濟學史翻譯を思止まりし他の理由は我和蘭にては佛語の初識書及し居るが故に之を其原語にて讀むは易き業にて和蘭語に翻譯の要少なからむと考へたるが爲也。

25) 神田孝平氏は慶應二年開成所教授職並となり明治元年開成所頭取となる、西岡氏は安政六年蕃書調所教授手傳となる、文久二年津田貞道氏と共に和蘭留學の途に上る歸朝後慶應二年開成所教授職となる  
26) 石井研堂氏著中村正直傳附錄年表明治元年の部に「四月ロンドンナ去り六月歸朝八月末駿河ニ赴ク、九月靜岡學問所一等教授被命」とあり又明治四年(末)の部に「七月立志編ヲ新刊ス、冬自由之理ヲ出ス」と記す、自由之理は、S. Mill 原著 On Liberty の翻譯也、此翻譯書の扉には明治辛未初冬新刻明治壬申二月發兌と刻す

(附註) E. W. De Rooy の De は佛蘭西語の發音にてはドなり和蘭語の發音にてはド又はデと當字するの外なからむデと當字したる例あれ茲にはドと當字する事に決定し置くべし。

(2) D. A. Walraoen 氏は西曆千八百五十一年(我嘉永四年)九月十日附にて此書の出版に就て序文 (Vorrede) を寄せたり其大要に曰く

この書の印刷されむとする數週間前出版者は予に閱讀の上序文を草すべき事を囑託せり。

それより先既に Meister 氏は同じく經濟學史と稱する著書を出版せり。而してそれにも増して此書の出版者を恐れしめしは Brandt の著書の翻譯の豫告也。此等經濟學史に關する同種類の書籍がこの書に先立ちて出版され又は出版されむとせし事はこの書の出版者をして氣遣はしめたり。

予は法律事務に賴學するものにしてこの種の書物を批判推舉すべき資格に乏し然れども予は書肆に躊躇する事なく此書を出版する事を勧めむとす……………

## 第二款 著者の略傳

エベルト・ウイレム・ド・ロイ氏(Evert Willem de Rooy)は西曆千八百十六年(我文化三年)

六月三日和蘭 Zwolle 市に生れ西曆千八百十六年(我慶應二年)三月九日和蘭首府ハーグ市(Gravenhage)に死す。Arnhem 市(Arnhem)にて小學及中學教育(古典的教育 Gymnasiaal Onderwijs 即ち

Gymnasium の教育)を受けたるも中學(ギムナシウム Gymnasium)を卒業せずして半途にして學校をやめ

進んで大學にも學ばずして軍籍に入れり。後彼は抵當局(het bureau der Hypotheken)の役員とな

- 27) 沼津兵學校沿革 工學博士 石橋純彦氏稿(同方會誌連載)  
28) 西周氏は明治元年陸軍學校頭取となりて沼津に往き城内に住む、即治二年德川家  
選番關滿知事となり關を學けて少參事格軍事掛となす(關外全集第七卷收錄西周  
年譜第百九十八頁參照)

論 叢

スミスの名其生涯及其事説等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三四二) 三四二

り暫らくにしてアムステルダム市に於ける官設保稅倉庫 ('S Rijks Entrepot te Amsterdam) の役員に轉じ後 Van Borse の大臣となるや其下に大藏省財務官補 (adjun Commies naar het ministerie van financieen) となり次で財務官に進めり。彼は傍經濟學 (Staathuishoudkunde) 及商業史 (Handels-geschiedenis) の研究に従事し兩方面に著述あり即ち第一の著述「歐洲經濟學史」(Geschiedenis der Staatshuishoudkunde in Europa van de vroegste Tijden tot Heden) は今は既に時代遅れの觀あれど當時は廣く世に迎へられたるの書也。第二の著述は和蘭商業史 (Geschiedenis van den Nederlandschen handel) 二卷にして此著述は今日と雖も價值を認められ最初の著述よりも優るの感あるも史料の蒐集整理未だ完成に至らずして終りしもの也。アムステルダム市にて千八百五十四年 (我安政元年) 出版也。

(附註) 以上は主として Brugmans 教授編纂新和蘭人名辭典第三卷に載する Evert-Willem de Rooy 氏の傳記を抄譯したもののなるや A. J. Van der Aa 氏編纂和蘭人名辭典には Evert Willem de Rooy 氏が和蘭文學會員 (Lid der Maats Van Ned. Letterkunde) (帝國學士院の如きもの乎) なりし事を附記し和蘭文學會員列傳 (Levensberijtes der Maats Van Ned. Letterk.) を參考書として掲げたり。

Ern. mans 教授編纂新和蘭人名辭典中のド、ロイイ氏略傳は在東京和蘭公使館通譯官「ドクトル、ロイベル」(Dr. F. Kuiper) 氏の通報に據り J. Van der Aa 氏編纂和蘭人名辭典は長崎市役所市史編纂室所藏のものを借覽せり。

(附考) ド、ロイイ氏經濟學史の名を掲げ又は載せざる經濟學史參考書

29) 武藤曰く J. A. Blanqui 氏著歐洲經濟學史 (Histoire de L' Économie Politique en Europe) には第二卷 (Tome Second) Chapitre XXX-Des Banques de dépôt et en particulier de Celle d' Amsterdam なる一節ありて 1609 年設立の アムステルダム銀行の事を叙述すれども和蘭經濟學説に就てにあらす



(一) *ローイ氏經濟學史*に就ては Luigi Cossa 氏原著 *Introduzione allo studio dell' economia politica*. Luis Dyer 氏英譯 *An Introduction to the study of political Economy* 中 Historical Part の部に經濟學史の參考書として和蘭人 J. A. Moister 著 *經濟學史* (*De Geschiedenis der Staatshoudkunde*) Amsterdam, 1851 の次に其名を挙げ左の如く記せらる。

E. W. De Rooy, *Geschiedenis der Staatshoudkunde in Europa*, Amsterdam 1851.

(二) 耳義トマンヤル大學教授たる Ernest Nys 氏原著 N. F. and A. R. Dryhurst 氏著英譯 *經濟學史研究* (*Researches in the History of Economics*) には De Rooy 氏の *經濟學史* 及び J. A. Moister 氏の *經濟學史* と共に其名を掲げると共に E. Laspeyres, *Geschichte der Volkswirtschaftliche Anschauungen der Niederländer und ihrer Literatur zur Zeit der Republik* (共和時代和蘭經濟思想及文獻史) 及び O. Van Rees, *Geschiedenis der Staatshoudkunde in Nederland tot het einde der XVIII de eeuw* (十八世紀末に至る和蘭經濟學史) 等を參考書として掲げしのみ。

(三) インブラム氏著 *經濟學史* には *ローイ氏經濟學史* に就ては少しも記する處なし。

(四) Palgrave 氏編纂 *經濟學辭典* 中 *和蘭經濟學派* (*Dutch School of Economists*) を題する部分に E. Laspeyres 氏著 *共和時代和蘭經濟思想及文獻史* 並に O. Van Rees 氏の *十八世紀末に至る和蘭經濟學史* 等を掲げると共に *ローイ氏の著書名を藏せり*。

(五) 福田博士著 *經濟考證* 第七篇十七世紀和蘭經濟學說一斑殊に商國主義の學說第三百四十二頁に和蘭經濟學史の書名を挙げられしに於て

De Rooy, *Geschiedenis der Staatshoudkunde*. 1857.

を印刷され居りてローイ氏著 *歐洲經濟學史* は千八百五十七年出版の如く見ゆれども實は千八百五十一年と改むべきにあらずや或は Brugmans 氏の辭書の如く千八百五十一年及千八百五十二年とすべき乎。

## 第二節 ド・ロイ氏歐洲經濟學史中アダム・スミス

## に關する記事

## 第一款 スミスの名と其生涯

ド・ロイ氏は歐洲經濟學史を四期に分ち第一期上古より基督教傳播まで、第二期基督教傳播よりアメリカ發見まで、第三期アメリカ發見より佛蘭西革命まで、第四期佛蘭西革命より現代まで、とせり。而してアダム・スミスに就ては第二期第二十七節(節は第一期より通算す)(27)英國、アダム・スミス (Engeland, Adam Smith) と題す部分にスミスの名と其生涯及其學說に就て記述す。スミスの名は右一節以外の他の節に散見す(例へば第四期第三十八節結論第六一五頁參照)

されど本篇には第三期第二十七節のみに就て考證すべし。スミスの生涯に就てロイ氏の叙述は極めて簡單且つ必ずしも正確ならざれど兎も角スミスとヒューム (David Hume) との關係を説き(第四七五頁) 又スミスのグラスゴー大學教授たりし事、佛國巡遊中巴里にて Turgot, Quesnay Helvetius 等を相交りし事、其後スミスは鄉里 Kirkcaldy (Kirkcaldy と綴り居らず) に隱退し著作に従事し遂に一七七六年 Inquiry into the nature and causes of the Wealth of Nations を著せし事等を述べたり(第四七六頁) 但し此書にはスミスの誕生年月日又永眠の年月日等を示し居らず、又スミスの

他の著述「道德感情論」(Theory of Moral Sentiments) 其他に就ては少しも述べ居らず。

## 第二款 スミスの學說

### 一

ド、ロイ氏は其著書の第四七六頁より以下にスミスの學說を説明せり氏は先づスミスの *Wealth of Nations* は五篇 (boeken Books) に分たれ居る事、彼の天才はケネーの學說の説を觀破せし事、スミスの分業論 (*De Verreeling van den arbeid*) はプラトー (Plato) より其根本思想をとりし事等を最初に述べたり(ド、ロイ氏著書第四七六頁參照)

今ド、ロイ氏が述べたるスミス學說及其批判を全文直譯紹介する事は本論文の頁數に制限ありて到底不可能なるのみならず其必要もなき故以下學說上重要な部分又スミスの有名なる句を原文と對照して説明し特に靜岡師範學校所藏本に紅唐紙の貼付しありし部分及其前後の文章を解説すべし。

### 二

ド、ロイ氏は其著經濟學史第四百七十七頁第二十行目より第二十二行目に亘り

*arbeids, die dit goed-hem recht geeft te vorde-en of te ver-luigen(which it enables him to purchase or command)*

論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟叢

第十八卷 (第一號三四五) 三四五

を記せり。

リッペン氏の The Wealth of Nations. Bk. I, Chap. V Of the real and nominal Price of Commodities, or of their Price in Labour, and their Price in Money の節に

.....His fortune is greater or less, precisely in proportion to the extent of this power, or to the quantity either of other men's labour, or, What is the same thing, of the produce of other men's labour, which it enables him to purchase or command.

である終の部分

.....labour, which it enables him to purchase or command

を蘭譯せしもの也。

その前の部分はスミスの原文と文句異れり。

### 三

ロイ氏經濟學史第四百七十七頁第二十三行目以下に

De arbeid is de wezenlijke maatstaf voor de nutbare waarde aller goederen

であるリッペン氏著 The Wealth of Nations, Book I, Chapter V の第九の節に

Labour is the real measure of the exchangeable value of all commodities.

と記せし文句を蘭譯せしものと見て可ならむ、即ち其意は「勞働はすべての財貨の交換價值の眞實

なる尺度也」を云ふにありてスミスの有名なる價值論也。

#### 四

ロイ氏經濟學史第四百七十七頁第二十九行目に

De wezenlijke prijs van iets, wat iets wezenlijks kost aan den man, die het noodig heeft, is de moeite en zorg om het verkrijgen.

を記せしはスミスが

The real price of every thing, what every thing really costs to the man who wants to acquire it, is the toil and trouble of acquiring it. <sup>30)</sup>

と述べし部分を蘭文に移ししもの也。

#### 五

ロイはスミスの有名なる句

It was not by gold or by silver, but by labour that all the wealth of the world was originally purchased <sup>31)</sup>

即ち「世界の有ゆる富は本來金銀により買はれしものにあらずして勞働により求められしもの也」  
この句を蘭文に簡約して

Alle rijkdom in de wereld is oorspronkelijk door arbeid verkregen

と云へり、(ロイ氏經濟學史第四百七十八頁<sup>32)</sup>)これを更に英譯すれば

論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に  
傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號三四七) 三四七

<sup>30)</sup> A. Smith's *Wealth of Nations*, edited by Cannan Vol. I, Book I, Chap. V. Real and Nominal Price p. 32. 福田博士著改訂增補國民經濟講話第二卷第五編第二十三章勞働の意義、第六百十二頁及第六百十三頁參照 アダム・スミスの言「勞働は最初の代價なり」とある部分

<sup>31)</sup> The *Wealth of Nations*, edited by Cannan Vol. I, Bk. I, Ch. V, pp. 32-33.

<sup>32)</sup> F. W. De Rooy 著 *Geschiedenis der Staatshuishoudkunde in Europa*, Pag. 478.

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號三四八) 三四八

All wealth in the world is originally obtained by labour

となりスミスの原文と同じからずれどキャナン氏がスミスの句を少しく變じて

All the wealth of the world was originally purchased by labour

となしたると同じく其意味に於て敢て變るなし而してこのスミスの思想と文句は既にデビッド、ヒュームが其論文商業論 (Of Commerce) 中に述べし處なるはキャナン氏の指摘せし處也。<sup>23)</sup> ヒュームの句に曰く

Everything in the world is purchased by labour

(David Hume, Essays, ed. of 1770, Vol. II p. 13.)

六

スミスの資本蓄積論 (Accumulation of Capital) 中浪費 (prodigality) と節約 (frugality) の關係を説きし一節に曰く

If the prodigality of some was not compensated by the frugality of others, the conduct of every prodigal, by beeding the idle with the bread of the inductions, tends not only to beggar himself, but to impoverish his country. <sup>24)</sup>

若し或者の浪費が別人の節約に依りて償はるゝことなくんば各浪費者の行爲は勤勉なる者のパンを以て怠惰の徒を養ふことによりてたゞに其人自身を乞食たらしむるのみにとどまらず其國をもまた貧困たらしむ。

ロイ氏は右スミス所説の主旨を蘭文に移して曰く

23) Cannan, Theories of Production and Distribution, Chapter III. p. 43.

24) Wealth of Nations; edited by Cannan. Bk. II Ch. III. Vol. I. p. 321.

Indien de spaarzaamheid van sommigen geen tegenwicht was voor de verspilling van anderen, zouden de algemeene inkomsten verminderen en het land verarmen. 35)

右ロ－イ氏の蘭文を英譯すれば

If the thrift of some did not counterbalance the wastefulness of others, incomes soon would be diminished and the Country impoverished.

となりスミスの原文と説明の言現はし方を異にする點あり

次にロ－イ氏は語を次で

Ieder verkwister is een vijand des lands, en ieder spaarzaam mensch moet als de weldeener der maatschappij worden beschouwd.

と述べ其一節を結び。而して右の句はスミスの原文には前に引用せし部分と文章直接に相續かずしてキヤナン版にて約一頁半を隔てたる部分に右蘭文を照應すべき文句あり。スミスの原文に曰く

every prodigal appears to be a public enemy, and every frugal man a public benefactor. 36)

右スミスの原文によれば「各浪費者は公共の敵にして各節約者は公共の恩人なるが如し」との意也ロ－イ氏の蘭文は「各浪費者は其國土の敵にして各節約者は社會 (Maatschappij) の恩人と見做さるべし」と云ふが如き意なれば別に異なる處なかるべし

論 證

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號三四九) 三四九

35) E. W. de Rooy 著歐洲經濟學史第四百七十九頁

36) W. of N. Cannan's ed. Vol. I. Bk. II. Ch. III. p. 323.

## 七

ローイ氏は其著歐洲經濟學史第四百八十一頁六行目以下に記して曰く

*De toestand des volks is het best, als de staat in welvaart vooruitgaat. Hij is hard, als de welvaart stilstaat, en ellendig, als zij vervalt.*

とこれスミスが第壹卷第八章勞銀論の條に述べたる左の一節に該當す

*The Progressive state is in reality the cheerful and the hearty state to all the different orders of the society. The stationary is dull, the declining melancholy* 37)

## 八

ローイ氏は其著經濟學史四百八十一頁の終の部分にスミスの教育制度論の一端を紹介せり其一節に曰く

*Een Zeker getal leerlingen te noemen naar eene Loogeschool te gaan, welk een onderwijzer er ook zij, is in Sommige opzichten de onderwijzers vrijstellen van de noodzakelijkheid om verdienste of roem te verkrijgen.....*

と。これスミスが *Wealth of Nations* Book V Chap. I. Part III Article II. 中に述べし左の一節の主旨を述べし也。

*Whatever forces a certain number of students to any College or University, independent of the merit or reputation of the teachers, tends more or less to diminish the necessity of that merit or reputation.*

37) Ibid, Book. I, Ch. VIII (Cannan's ed., Vol. I, p. 83)



彼(アダム、スミスを指す)の説に據れば政府(ロイ氏の著書には *regering* と印刷され居れど今は *regering* と綴る)はたゞ三種の職務を考慮すれば足る而してこれ等三種の事柄は最も重要なれど甚だ簡單也。<sup>38)</sup>

第一他の國民(スミスは *Other independent societies* なる文字を使ひしもロイ氏は *andere Volken* 即ち他の國民なる文字を用ひたり)の侵害及暴虐を防ぎ以て其社會(スミスは *Society* なる文字を使ひロイ氏は *Maatschappij* なる文字を用ひたり)を保護する事即ち國防

(附註)スミスの所謂 *first, the duty of protecting the society from the violence and invasion of other independent societies.*

第二社會の各員を保護し其社會に屬する他人の害心不義を防ぐ事

(附註)スミスは *injustice or oppression* 即ち不義抑壓なる文字を使ひしもロイ氏は *Kwaadwilgheld en onrechtvaardigheid* 即ち英譯すれば *Malvolence and injustice* に該當する文字を用ひたり。

この第二の事柄は換言すればスミスの所謂 *the duty of establishing an exact administration of justice* 即ち正しき司法裁判度を設くる事是也

第三個人又は少數者の到底之を施設し又維持し難き人類社會の福祉を増進する公共事業を創設維持する事

(附註)こは例へば道路橋梁運河港灣教育事業等の如し。

論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三五二) 三五二

38) Bk. IVCh. IX (Cannan's ed., Vol. II, pp. 184-185)

其餘の事柄は特に利害關係を有するものゝ智慧分別と見識洞察とに任すべきもの也。

アダムスミスの著書 (Het werk van Adam Smith) (寫眞に示す如く work なる文字の上に紅唐紙が貼付しあるを參看されし) は誤謬なしと云ふを得すこれ實にすべての人間の勞作 (arbeid) に免がれ難き事也。レント (rente) に關する説は後に至りアンダーソン (Anderson) により其非なるを證せられたり。<sup>39)</sup>

彼は農業及資本の運用 (Gebruik der Kapitalen) に就て餘り注意せざりしが工業 (Nijverheid) に就ては非常に重きを置けり。無形物を産出する者は生産勞働者にあらずして不生産勞働者 (スミスの所謂 unproductive labourers) 也。<sup>40)</sup> されど或程度まで有用也。スミスの學說によれば醫師 (Geneesheren, Physicians) 藝術家及官吏の働は生産的勞働に屬せすとせり。この謬見は後の經濟學者 (Staatskundigen) により其誤を指摘せられたり。

商業 (Koophandel) が國民の繁榮に及ばず影響に就て彼は未だ其眞價を充分認むる事を得ざり也。彼謂くらく内國商業 (binnenlandschehandel, home trade) は外國貿易 (buitenlandschehandel, foreign trade) よりも利ありと又外國貿易は運送通商貿易 (transporthandel, carrying trade) よりも利ありと。此の如きスミスの説の誤を指摘せしは Macculloch 氏也。尙又彼は國民の利害が互に相異なる事今日吾人の視るが如きものなる事をよく思付かざりし感あり。彼の議論たるや四

39) Cannan, Theories of Production and Distribution, Chap. VI. p. 221. 福田博士著經濟學研究收錄「アンダーソンの地代論とリカルドの地代論」參照  
Ingram, History of political Economy, p. 125  
40) Wealth of Nations Bk. II. Ch. III. Vol. I. p. 314  
41) The Wealth of Nations, edited by Cannan, Bk. IV Ch. IX Vol. II., p. 181.  
42) Ibid. Bk. II. Ch. V

海同胞一視同仁のコスモポリタンの考にて世の利害の一致し居るが如く考へたるものゝ如し  
(武藤曰くロイ氏がスミスなコスモポリタンの也との評は正しからざるべしスミスが單なる四海同胞一視同仁的のコスモポリタ  
ンにあらずや) 爭は J. S. Nicholson 教授著 A project of Empire. Chap. II. The Nationalism of Adam Smith & 2. Adam  
Smith not Cosmopolitan 中にも力説せし處也。<sup>43)</sup>

(附註) 以上にてロイ氏著歐洲經濟學史第四百八十二頁の解説は終る、末節の Vele zijner denkbeelden..... は次の四百八  
十三頁に續ぐ即ち Vele zijner denkbeelden Kunnen dus vooreerst hunne trepassing nog niet vinden. 二つ文章  
をなす Vele zijner denkbeelden には many of his ideas の意也、その全文の解説は次に之を述ぶ。

十

彼は思想の多くが (Vele zijner denkbeelden) 世に行はるゝまでには長き歳月を経るを要す。

彼の著書の現はれし後 (Na het verschijnen van zijn werk) 競争は激甚となり且つ産業の爲めに  
専ら資本の放下さるゝ事は形勢を險惡にし其結果として貧困者を多く出すに至れり。長き討議の  
後千八百三十四年穀物條例は議會を通過せり其討議に際し故 Sir Robert Peel 等の主要なる政治  
家は貧窮者を生じたる原因は器械の使用に伴ふ競争増加の結果なりと云ふ説を抱持せり。議案の  
千八百三十四年に議會を通過せし前に調査を行ひしに同じ結論に到達せしと云ふ。

科學 (Wetenschap, Science) はアダム、スミスに負ふ處多し、何となれば彼は彼の時代の思想  
に反對し人類の歴史より證據を得て其學説を建設したれば也。何人も彼の學説が假令理路整然た

論叢

スミスの名其生涯及其學説等を早く我國に  
傳へたる關文經濟書

第十八卷 (第一號 三五三) 三五三

43) J. Shield Nicholson, A project of Empire pp. 9-11.  
We do not love our Country, merely as part of the great society of  
mankind (Theory of Moral Sentiments, Part. IV, Section II. Chap. II)

る點に於て缺くる處あるにせよ文章の明快なる確に彼の著述は一時代を劃するものなる事を疑ふものなかるべし、而して一度彼の學說の價値の認識するに及んでは植民(Kolonien)銀行(Bank)工業(nijverheid)租税(belastingen)等に關する見解に一大革新を惹起せり。

彼は勞働自由(Vrijheid van arbeid)の價値を宣言せり

(附註) ロイ氏著歐洲經濟學史第四百八十三頁の寫眞に示す如く同頁上より數へて第二十五行目、下より數へて第八行目に  
nijverheid, belastingen, enz. Hij verkondigde..... en en zoo voorts の略字に、and so on, and so forth,  
el cetera(etc.) を意味し其次に別の文章 Hij verkondigde.....の初まる句切の處に紅唐紙の貼付され居りて何人か其部分  
を讀み疑問を挿み居りし事を證す寫眞の其部分を特に讀者の參看せられむ事を予は望むもの也 Hij verkondigde..... は  
He proclaimed 彼は宣言せりとの意也

それに就ては既にド、ラ、クール(de la Cour)はケネー(Quesnay)と共に彼に先立ちて論述せし處也。

人々は貿易平衡論又は制度(het Stelsel van de handelsbalans; doctrine of the balance of trade, Balance of trade system, Handelsbilanztheorie)の誤なるや否乎又た金銀のみが富なりとの説の正しき乎否乎を疑ひはじめたり。

この學說は各國に擴がり當時の經濟學說(de wetenschap der Staatshuishoudkunde)はこれを採用し居たりし也。

(附記) ド、ロイ氏著歐洲經濟學史スミスの學說を紹介せし全文は以上紹介せしものゝ外に尙あれど本論文紙数の制限あり又全文紹介の必要なかるべきが故に略す 蘭文翻譯に就て長崎在住の蘭人 D. Goudward 氏、東山學院長ライク氏 (D. C. Ryck) 我々大崎講師等よりは特別なる助力を得たり。但しスミスの原文との對照、譯語核定邦語に翻譯等予の單獨の責任に屬するもの多し。若し原文の眞意を傳へ得ざりし個處あらば其責は予の負ふべきもの也。讀者の高教をまつ。

## 第三章 西洋經濟學に關する書物として早く我國に傳りし蘭書

予が以下節を分ちて掲ぐる蘭書は予がこれまで自ら見出し得たる西洋經濟學に關係ある書物なり、其或物は徳川時代に出版せられ幕末に輸入されたるものなるべく、或物は明治の初年に我國に傳りたるものをも敢て除外せざりき。概括して英米出版の同一種の英書よりも比較的早く我國に傳りたるものなるべしと思考するも大なる誤なかるべしと信ず。此論文に掲ぐる外に統計に關する蘭書の輸入されしもの種々あり。又政治歴史地理等に關係ある書物にて經濟學に關係ある記述を載するものあるべし。

(附註) 例へば佐賀鍋島家所藏西曆千八百〇二年 (我々昭和二年) 出版 C. Zillesen 氏著和蘭史 (Geschiedenis der Vereenigde Nederlanden) 第六編の如し。

されどそれ等は省けりたゞ百科全書辭書中經濟學に關する用語を載するものは二三これを例示す

叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號三五五) 三五五

る事とせり。

又法律に關する書物中民商法に關するものゝ外に救貧法 (De Arme wet) に關するものもありて社會政策に關するもの輸入され居れどそれ等に就ては茲に述べず。<sup>44)</sup>

又佛文經濟書經濟學辭書等の早く輸入されし事佛蘭西法律書と同じなれどそれ等も共に例示せず蘭書に限れり。佐賀鍋島家内庫所に現存する安政五年午十二月御買入蘭書目錄中には農業經濟に關するものあれど書物は傳らず故に省く。

## 第一節 經濟學原論及學史等

(第一) J. L. デ・ブロイン、コプス氏 (J. L. de Bruijn Kops) 氏著經濟學原理 (Beginselen van Staatshuishoudkunde)

こは靜岡師範學校及東京内閣文庫に現に之を蔵す。

内閣文庫所藏本は一八七三年(明治六年)アムステルダム第五改訂増補版にて内務省圖書ブロインコッパ經濟書と附記しあるを見たり。靜岡師範學校所藏本には假綴本第一卷 (Eerste Deel) のみのものと本綴一部一冊のものゝ二種あり假綴本にて第一卷のみ保存され居るものを見るに發行年度を示さず第三改訂増補版 (Derde, herziene en Vermeerderde Druk) として其第一卷 (Eerste Deel) の扉の上部右方に 駿府學校 の捺印あり本綴の一部一冊のものは扉の上部左方に 靜岡學校 の印あり。其扉に第三改訂増補 (Derde, herziene en Vermeerderde Druk) とある外に新版 (Nieuwe Uitgave) と印刷し發行年度を示さざる事は駿府學校の印あるものと同じ而して駿府學校の印あるものも又靜岡學校の印あるものも共に其以前は開成所の藏本たりしものゝ如し。而して靜岡師範學校にも東京内閣文庫にも共に見されど第一版は西曆一八五〇年(嘉永三年)出版にしてこの書は第五版まで版を重ねたるものゝ如し。<sup>45)</sup>

44) 天明七年(1787)刻成森島中真編輯紅毛雜話卷之一貧院の部參照  
本多利明が立衆邸に宛てたる書狀中『セオガラヒと云ふ言の内にフランス國の政  
事あり窮民の救金の事あり云々』と記す(本庄榮治郎氏著經濟史研究第九十五頁  
參照)

45) Palgrave 氏編經濟學字典第一卷所載 Dutch School of Economists の部參照

この書は經濟學原理の書物なればスミスの學説は勿論記しある筈なれど果して其部分が讀まれしとの確證なし蓋し紅唐紙を貼りて疑義ある個處を示し又鉛筆等を用ひて讀了の印を附するが如き形跡を予は見出さざりしを以て也。

(附註) ドクトル、ブロイン、コッブス氏は和蘭ライデン一學に學び法律學の下クトルとなり大藏省に出仕し又鐵道管理局となり鐵道に關する著述を出せり。現に東京内閣文庫に藏するものにして予の見出せしもの次の如し。

Beknopte Handleiding tot de Kennis der Spoorwegen en het voornaamste wat daartoe Betrekkende Heeft door Mr. J. L. de Bruijn Kops. Amsterdam 1853.

彼は Delft の高等工業學校の經濟學教授となり雜誌 De Economist を發刊せり又經濟學原理を著せり。彼は改進黨員たりし事二十年の久しきに及び和蘭衆議院にて二年間議長たりき。

【以上は在東京和蘭公使館通譯官ドクトル、ロイベル氏(Dr. J. Feenstra Kuiper)より得たる材料に基きそれに予の有する資料を加へて起草したるもの也】

右の如く De Bruijn Kops 氏經濟原論は我國に早く傳はりしも Vissering 氏著 Handboek der Praktische Staatshuishoudkunde (Manual of Practical Political Economy), 1860. 其他 W. C. Mees. 氏等の著書は傳はりし形跡未だ發見されず尤も西周津田真道氏等の藏書に就て未だ調査せざるが故に斷言する能はず。

(第11) H. Baudrillart 教授原著 W. A. Vinuly Verbrugghe 氏蘭譯「經濟學提要」(蘭名 Handboek der Staatshuishoudkunde) 千八百五十九年(我安政六年)和蘭 Haarlem 市出版。<sup>46)</sup>

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三五七) 三五七

46) この原書は College de France 教授たりし Henri-Joseph-Léon Baudrillart (1821-1892) 著 Manuel d' économie Politique (1857) 也。

## 論叢

スミスの名氏生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號三五八) 三五八

この書は目下靜岡師範學校に保存され居り其扉には外國方の印の外に開成所の印を消して其上に靜岡學校の印を捺しあるを見る。

靜岡にあるものは第一卷 (Eerste Deel) 第二卷 (Tweede Deel) を合綴したる一冊本也。

(第三)經濟學史の書物は前章に掲げ又本文に於て主として考證せしド・ロイ氏(假名にてデ・ロイ氏と記するものありそれとても可ならむ)歐洲經濟學史の外には J. A. Molster 著歐洲經濟學史の如き輸入されざりしものゝ如し。

されど經濟史の海事史航海發達史又商業史の記述ある書物の輸入されたるものあり。

(附註)予が論文「鐵道に關する智識の我國に傳はりし門戶としての長崎」(長崎高商研究館年報第三冊所載)中に引用せし佐賀鍋島家所藏千八百五十八年和蘭ライオン出版の「蘭工業發明書」(Het Boek der Uivindingen Ambachten en Fabrieken 第三卷)には航海及世界商業 (Scheepvaart en Wereldhandel) を題するべきに歴史的長文の叙述あり、世界商業史 (Geschiedenis van den Wereldhandel) に就て參考すべき記事あり、佛蘭西に於てはコルベル (Colbert) 英國に於てはクロムウェル (Cromwell) 等の政策を論じ又東印度會社 (Oost Indische Compagnie) の事も詳述し尙又日歐交通史等にも及べり。

## 第二節 蘭文の貨幣及銀行論

(其一)和蘭 Zalt-Bommel にて西曆千八百五十二年(我嘉永五年)發行 D. C. Steijn Parvé 氏著蘭領印度貨幣及銀行史 (Geschiedenis van het Munt- en Bankwezen van Nederlandsch Indië)



此書は明治以前既に我國に輸入せられ、外國方（今日の外務省）の印あり、又外に開成所の印あり、それを抹消して其上に

靜岡  
學校

の印を捺せしもの、今現に靜岡縣靜岡師範學校に保存せられ居る事を一昨大正十年の夏予は發見し、其後予は其書を丸善書店を経て和蘭に注文せしが、最近八月二十六日其現本を接手せり。依て親しく其書物を扱せしに、其第二百四十七頁に次の如くアドムンスの所謂引用しある事を今回見出せられ、靜岡學校所藏本にはこの部分を讀みたる形跡なし。

De bank (de Javasche bank を指す) zelve droeg dus bij tot de verjaging van het edel metaal.

Dit Kan voorzeker op geene dinnijkere en meer praktikale wijze worden aangeleend dan zulks door Adam Smith is gedaan.

Veronderstellen wijbij voorbeeld dat al het in omloop zijnde Geld van Zeker land op eenen Zeeren tijd een miljoen Ponden Sterling bedroeg.....

Goud en Zilver zullen dus tot een bedrag van 800,000 ponden worden weggezonden en het kanaal der buitenlandse circulation blijven vervuld met één miljoen aan Papier, in stede van één miljoen van die metalen, welke hetzelfde vroeger vervulden.....

右引用したる Let us suppose 以下の英文はスミスの Wealth of Nations Bk. II. Ch. II 中の一節也。

Let us suppose for example, that the whole circulating money of some particular country amounted at a particular time to one million sterling.....

Gold and silver therefore to the amount of eight hundred thousand pounds will be sent abroad and the channel of home circulation will remain filled with a million of paper instead of a million of those metals which filled it before

（其二）西曆千八百六十一年（文久元年）和蘭國 Haarlem 市出版 J. T. Bujs 氏著「不動産銀行

論叢

スミスの名義生涯及其學說等を早く我國に傳へたる國文經濟書

第十八卷（第一號三五九）三五九

論「De Hypotheekbank」

此書は靜岡師範學校に現存す小冊子也この書にはマダムスミスの事を記せず

(附註)の著者 J. T. Bujs は右著書の外に (1) Voorlezingen over de circulatie-banken, Haarlem 1856. (2) een gewie d monopolie, in „de Gids" 1863 III. 等の著書ある事は西曆千九百一十六年ハーク出版 Dr. Curt Eiseld 著和蘭銀行論 (Das Niederländische Bankwesen) 第一卷に參考書として掲ぐされ此等の著書は靜岡師範學校にも東京内閣文庫にも見當らず我國に輸入されざりしならむ。

此 J. T. Bujs 氏著不動産銀行論の我國に輸入されし理由如何予は其事に興味を感じるもの也但しこの書は讀まれざりしが如し。

又銀行論の書物にあらずんか Bank の事は青地盈林宗譯述與地誌略卷五諸厄利亞の部に短き説明あり。<sup>445)</sup>

第三節 蘭文財政學

(A) 西曆一八五四年(安政元年)及一八五五年(安政二年)和蘭Zalt-Bommel出版 Gijbert Karel Grave

Van Hogendorp 氏原著 J. R. Thorbecke 氏監修訂正第二版 (第一卷は一八五四年第二卷は一八五五年) 及第

一卷及第二卷を合本したる Amsterdam 版の「和蘭財政研究」(Bijdragen tot de Huishouding van

Staat in het Koninkrijk der Nederlanden) <sup>446)</sup> 學校府の捺印あり。

(B) J. J. Weeveringh 氏著國債史要 (Handleiding tot de Geschiedenis der Staatschulden)

<sup>50)</sup> 此書の第一部 (Eerste Deel) 和蘭國債 (Nederlandsche Staatschuld) なる一編の目下靜岡師範學校に保存されて居るも

445) 貨幣の應を需卒と云自國他國の貨を貯へ收支兌換を司る云々 (文明源流叢書第一・與地誌略卷九第三百七十三頁參照)

446) 此書名は英譯すれば Contributions to the Study of Finance of the Kingdom of the Netherlands とも譯すべし

50) この書は二冊ものにして第一部及第二部あり共に紙切れ居らず内容を讀みたる形跡なし

のには其扉に 靜岡學校 の印あり 開成所 の印の消され居るを見る。

## 第四節 蘭文經濟學及統計學雜誌

- (1) 經濟雜誌 De Economist (J. I. de Bruijn Kops 氏編纂)

此雜誌の西曆一八六〇年(我萬延元年)度發行分(四百七十二頁の大冊なる雜誌也)は靜岡師範學校に現存す 駿府 の捺印あり。

- (2) 經濟學及統計學雜誌(蘭名 Tijdschrift voor Staathuishoudkunde en Statistiek)

靜岡師範學校には一八五六年度(安政三年)一八五七年(安政四年)一八五八年及一八五九年度(安政六年)一八六〇年度及一八六一年分等現存す。予の見たる一八五六年及一八五九年度分には 駿府學校 の印あり。<sup>51)</sup>

- (3) 國家學及經濟學年報 (Staatkundig en Staathuishoudkundig Jaarboekje)

これは和蘭統計協會 (de Vereniging voor de Statistiek in Nederland) 發行のものにしてアムステルダム西曆一八七七年出版の分を予は内閣文庫にて見たり。<sup>52)</sup>

(附註)我國最初の統計學者杉亨二氏は長崎人にして最初蘭學を勉強し統計學に志したる人にして統計又統計學の知識は蘭文の書物雜誌新聞等により得たるものなる事を忘るべからず。

## 第五節 百科全書辭典

- (I) 一八四二年(天保十四年)出版和蘭商業雜纂一名商工業辭典(Nederlandsch Handelsmagazijn, of

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷(第一號三六一) 三六一

51) この雜誌は1852年(嘉永五年)より1891年(明治二十四年)まで69卷を出せり(Palgrave氏編經濟學辭典和蘭經濟學派の部参照)  
52) Palgrave氏辭典に據れば1841年(天保十二年)より1875年(明治八年)まで二十八卷を出せしと云ふ予は本年九月一日1860年(萬延元年)分を丸善書店を経て和蘭より入手せり。此雜誌名を英譯すれば Magazine or Journal of Political Economy and Statistics. 此雜誌の事は J. H. Levysohn 氏著 Bladen over Japan, p. 68 にも記述す

## Algemeen Zamenvatend Woordenboek voor Handel en Nijverheid

此辭典には商業政策 (Handelspolitiek) なる經濟學用語の項目ありそれには重商主義 (Mercantil System) 航海條令 (Navigatie Akte) 自由放任主義 (laissez-faire) 等に就て記述せり而して此等は皆アダム・スミスの學說を重要なる關係あり但しこの項目中にスミスの名は見當らず。次にこの辭典には貿易平衡 (Handelsbalans, balance of the trade) なる用語の説明ありこの内に重商主義 (Het Mercantiele System) の説明あり。又此辭典には商業 (Handel) 商事會社 (Handel-Maatschappij) 貿易平衡 (Handelsbalans) 商業學校 (Handelscholen) 貨幣 (Munt) 簿記 (Boekhouden) 鐵道 (Spoorwegen)<sup>53)</sup> 東印度會社 (Oost-Indische Compagnie) 等の項目あり。

貿易平衡 (Handelsbalans, 英 balance of the trade, 佛 balance de commerce 獨 Handelsbilanz) の項目中にはメルカンチル・システム、及フイジオクラテン (Physiokraten) の事を述べ居れどもアダム・スミスの名を掲げざる事商業政策の項目と同じ。

この辭書は静岡師範學校にも一部保存せらる而してそは長崎より輸入されたるものなる事も其書の捺印に依り明也。

當長崎には幕府時代、崎年譜譯部<sup>57)</sup>即ち和蘭通詞の藏書にして今は當長崎市史編纂員古賀十二郎君の所藏に歸せしものあり予も亦長崎にて上下二卷のうち下巻一冊を得たり。此辭書は長崎和蘭通詞等は勿論江戸等にては蘭學者又爲政者の參考に供せられしにあらずや貨幣に關する部分は蘭學者故杉田玄瑞氏により萬國全地貨幣說を題し翻譯されたり此翻譯は何時行はれしものなる乎明確ならざれど其前に緒言的に掲げられたる古錢の畧記なる一文は丁卯仲秋とありてこれ慶應三年西曆千八百六十

53) この年報は1849年より1884年まで三十六卷を出せりと云ふ。(Palgrave辭典参照)  
 54) 國民經濟雜誌第25卷第6號所載拙稿『銀行ナル名辭ノ由來ニ就テ』(其十)中に引用せし  
 55) 此辭典中貨幣 (Munt) の部の翻譯の説明同誌第30卷第一號所載拙稿『明治以前長崎ニ傳ハリシ蘭文簿記書』  
 56) 長崎高商研究館年報第二冊所載拙稿『鐵道に關する智識の我國に傳はりし門戸としての長崎』参照

七年の事なり。萬國全地貨幣説と共に故杉田玄瑞氏の書きしものなるべく時期も同じ頃ならむ乎

右鐵器と關聯して予が最も興味を感ずるはそれより時代は逆れ、徳川時代我國の學者中經濟を論じたるものは多く貨幣問題を述べ、又長崎に於ける清國貿易の Balance of trade の問題に苦心せしが故に其等の問題に關する蘭書は注意して長崎の蘭通詞又江戸其他の蘭學者をして讀せしめし事なき乎否乎の 題也。

又前述の如く經濟上貨幣問題を論ずるよりも主として古錢を弄ぶ趣味の上より和蘭其他西洋の貨幣を蒐集研究したる人あるべし而して又古錢蒐集の趣味より當時の貨幣制度の研究に導かれしものもあるべし。<sup>559)</sup>

(II) 西曆千七百九十三年(我寛政五年) アムステルダム P. Marin 氏編著佛蘭字典(佛語にては Dictionnaire François et Hollandais par Pierre Marin を稱し蘭語にては Fransch en Nederdutch Woordenboek door Pieter Marin を呼ぶ)を檢するに Economique の部に

De Economiques d'Aristote De Boeken van Aristoteles over de gemeene Stoffen  
とありてアリストートル(佛語にて Aristotele)の經濟學に就て言及せり。

(附註) 予の參考せしこの辭典は櫛林鐵之助手澤本の今は長崎高等商業學校に所藏され居るもの也。別に千七百十七年和蘭アムステルダム出版 P. Marin 氏蘭佛辭書を長崎にては福田忠昭氏所藏す。この辭書に Staatskunde の説あり。文化七庚午年(西曆一八一〇年)刊行せし藤林崑山若譯鍵には Staatskunde を國政と譯せり。

(III) シヨメル氏 (M. Noel Chomel) 編纂百科辭書 (Algemeen Huishoudelijk, Natuur, Zedekundigen Koost Woordenboek)

此シヨメル辭書はシヨメル和蘭蘭府とも稱し東京内閣文庫、東京帝室博物館、佐賀鍋島侯爵家内庫所等に現存する有名なる

論叢  
スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號二六三) 三六三

57) Hildreth 著 Japan as it was and is. Chapter XXVII. p. 231. Corporation of interpreters の説明中 Ninban [Nenban 年番] の部參照  
58) 新井白石著「本朝實貨通用事畧」太宰純(春臺)經濟錄「經濟錄拾遺」荻生徂徠政談卷之二青木昆陽經濟錄「國家食貨畧」國家金銀錢譜同續東和蘭貨幣考三浦梅園「價原」水居宣長著「玉くしけ」中井竹山「草莽危言」本多利明著西域物語卷下近藤守重撰述「錢錄」(近藤正齋全集第三收錄)  
59) 彩雲堂主人朽木龍橋著撰「西洋錢譜」「新撰錢譜」(別に泰西輿地圖説を著せり)

論叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三六四) 三六四

辭書なるが今佐賀鍋島家所藏本(西曆千七百七十八年版)を極せしに國家政治學(Staatskunde; Politica)をば説明して  
Staatskunde; Politica: is dat sedeele der Philosophie of Wijgeente ... の説明(その中に)アリストートルの學派  
プットーの事、又アリストートル(Aristot.)の政治學(Politica)及道德學(Moralia)を参照すべき事を述べたり。

第四章 結 論

三、浦梅園(享保八年(西曆一七二三)スミスと同年に生れ寛政元年(西曆一七八九)即ちスミス永眠の前年歿す)は安永七年戊五十六歳にして第二回長崎に遊學中蘭大通詞吉雄幸作(通稱幸左衛門を幸作と改む詳は永章耕牛と號す寛政十二年八月十六日歿す年七十七)と交際し其家を訪ひ其有名なる座敷、書齋(所謂阿蘭陀二隨)を見たる彼は長崎より豊後三子山下の郷里富永村に歸臥し歸山錄二卷を作り(安政七年長崎より歸り間もなく執筆せしものならむ)其内に吉雄及吉雄亭に就て記して曰く

吉雄名は永章字は耕牛(耕牛は號也梅園の書誤)幸作と稱す此亭にて松村君紀に會ふ君紀は其字名は元綱安ノ丞と稱す共に阿蘭陀の舌人(通詞)耕牛西學に通ず西洋の書を儲えて架に滿つ其客を愛す、<sup>61</sup>  
又曰く

吉雄亭奇貨多し只此時長崎熱鬧其奇貨を遍く見其説を詳に盡す事能はず今に是を憐む亭上阿蘭陀琴望遠鏡、顯微鏡、天球、地球、ナクダント、タルモメートル其外奇物種々を見る……<sup>62</sup>

次に耕牛の讀書に就て述べて曰く

耕牛よく西書を讀む又西洋の律を好む。<sup>63</sup>

60) 大槻立澤の蘭譯棉航後付第二書に「シヨメールと申すは民用厚生必要之書」云々の  
大槻茂實立澤幸田川瑛立直譯校原生新編は靜岡師範學校に現存すシヨメールの  
原書との關係に就て論すべき事あれど今は畧す  
61) 梅園全集上卷歸山錄上、第1052頁  
62) 梅園全集上卷歸山錄第1066頁  
63) 同 1077頁

更に曰く

阿蘭陀等は經濟の道生殖を主とす又鬼神を信ず。<sup>(64)</sup> . . . . .

〔附註〕三浦梅園著歸山錄中の右一節は本文のはじめに引用せし寛政十二年庚申九月出版廣川灝著長崎同見錄中の一節と其主旨を  
相照應す

三浦梅園は翌安永八年作の其詩「謝吉雄耕牛惠西洋管窺鏡畫」<sup>(65)</sup>中に添へて記して曰く、

圖書滿架皆西洋物披閱之天文地理國史小説政刑律令國主尊儀和漢天爲選運之志本章湯液麻附疔瘍等百技製造之書。

吉雄幸作の後裔あるも其藏書は散逸して傳はらず、アダムスミスと同年に生れ一年早く永眠せし三浦梅園が安永七年(西曆一七七八年)長崎に來りし當時西洋經濟書は傳はり居らざりしにせよ政刑律令地理國史等の書物の當時既に輸入され吉雄耕牛の如き蘭通詞の書齋に見出されし事は梅園の詩により明也。而して其等の書物中に經濟に關する記事の散見せしやも知れず三浦梅園は蘭書を讀む能はざりしも吉雄松村等の蘭通詞より和蘭の國情地理天文言語詩文等の事を傳聞して智見をひろめたり但スミスが *Wealth of Nations* を脱稿したる西曆一七七二年即ち我安永二年に三浦梅園が撰述したる價原は梅園の長崎第二回旅行前なり即ち第二回長崎遊學の影響なき著述なり次に本多利明(1771-1821)の著述は未だ西洋經濟學の専門書の影響なしとするも其時代に既に輸入され居りし地理歴史航海百科辭典等に關する蘭書の影響若しありしとせば其等の書物の内に經濟上の記事散見せし事を否定する能はざるべし。若し夫れ千八百五十年代及其以後には専門的なる蘭文經

論 叢

スミスの名其生涯及其說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷 (第一號 三六五) 三六五

64) 同

1079頁

65) R. K. Douglas 編 *Japanese Books and Manuscripts in the British Museum* p. 33. 廣川 Hirokawa "An Account of Nagasaki" 1800. 參照

66) 梅園全集下卷梅園詩集卷之百八十四上第六頁

濟學書又佛蘭西經濟書 (千八百四十六年出版の佛文經濟書 Repertoire General D'Économie politique Ancienne et Moderne Par A. Sandelin は海關師範學校に保存せらる) 等の輸入せられ居る事は予の研究により明となれり。

西洋の經濟學の講義をはじめて専門の學者より聽き且つ學びたる人は西周助(周)及津田眞一郎(眞道)の兩氏也兩氏は洋書調所教授方たりしが文久三年(西曆一八六三年)和蘭レイデン(Leyden)に留學し同大學の Prof. Vissering (畢瀝林又華瀝林) 教授より經濟學 (Staatshuishoudkunde) の講義を聽き教を受けたる西氏はこの學問を説明して是富國安民之術而論其道如何也と記せり。<sup>67)</sup>

西周氏は Prof. Vissering (漢字に當字して畢 林又華瀝林と書す) より政事學の大本を學べり而してそれは一、性法學(Naturewet)二、萬國公法學 (Voeckewet) <sup>68)</sup> 三、國法學 (Staatsrecht) 四、經濟學 (Staatshuishoudkunde) 五、政表學 (Statistik) の五科に別たれたり西氏は歸朝後慶應二年正月十五日前職を襲いで開成所教授手傳となりし故この人等が E. W. デ、ロイ氏著歐洲經濟學史を自身持歸らざりしにせよ注文輸入し且つ讀みしにあらざると思はる。

(附註) 西周氏は蘭書の外英書も讀みミル著論理學により立論したる致啓知蒙を著し又ミルの Utilitarianism を譯して利學と題して出版せり今此文を草するに當り二書共に予の座右にあり故森鷗外博士編西周傳に載する西周所著書目によれば又別に經濟學殘缺一卷ありと云ふこれによりて觀るに西氏が E. W. デ、ロイ (E. W. De Rooy) 氏著歐洲經濟學史の名を知り又其書を讀みたる事あるべしとの推測は必ずしも不當にあらざるべき乎、予は西男爵家に西周氏藏書の保存され居るも

67) 西周傳(鷗外全集第七卷第百六十一頁)參照  
西周助は西周と津田眞一郎氏は津田眞造と改名せり

68) 畢瀝林氏萬國公法(開成所教授職西周助譯)



のに就て鵬外博士に面會して尋れし事ありしが鵬外博士も既に永眠せられ其方面の探查問合は爾來中止して今日に及べり。

我國に於て最初に出版の經濟書たる「經濟小學」の著者神田孝平氏は英文原書より譯する事なく蘭譯書より重譯せりされば我國最初に出版の經濟書は蘭學又蘭書の產物なりと云ふを得べし、(尤も神田孝平氏は蘭語に長ぜしも英語も讀まれし由神田乃武先生より聞けり)又經濟小學の上卷に

富強生二於民工

民工出二於政事

政事立二於自主

自主本二於知識

右和蘭學士華酒林之語譯以事三餘白一

と記せり神田孝平氏は開成所教授職(明治元年に其頭取となる)にありし人にして西、津田氏等より Vissering 氏の講義著述を傳聞借覽し両氏が携歸りたる講義錄に基き神田氏は性法略を著し(明治三年)たる關係もあり和蘭の學統に屬す。ド、ロイー氏經濟學史も開成所藏本たりし時代に讀みしやも知れざる也。

次に慶應二年米國に航し持歸りて我國に米人 Wayland の經濟書を傳へたる福澤諭吉氏は神田孝平氏と前後してチャンブル氏所撰の經濟書を譯し傍ら諸書を鈔譯し増補して西洋事情外編として慶應三年丁卯季冬題言を草して出版せし人にして此等は英文の經濟書を原書とするものなれども福澤氏は最初蘭學を長崎及大阪にて勉強したる人也、但し氏は長崎及大阪にて蘭文經濟書に接したる事なきが如し。

然れども安政元年福澤氏長崎遊學前我弘化四年(西曆一八四七年)に蘭文簿記書の我長崎出島

論 叢

スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたる蘭文經濟書

第十八卷(第一號三六七) 三六七

69) チェンバーの經濟論の事は福翁自傳王政維新の部第三百六頁以下に之を記す、この書亦ウエーランドの經濟書と共に福澤氏が米國より持歸りしものにや其邊不明瞭也、チェンバーは英國出版ならずや、(福翁自傳第三百二十二頁參照)

に傳はりたる事の確證ある事を思ひ合せて明治以前幕末に一冊の西洋經濟學書も我長崎の門戸を通じて我國は傳はりしものなかりし事を誰れが斷言し得んやさりながら予が前に紹介せし蘭文經濟書は安政開港以後我國に傳はりしものとせば長崎の門戸を通じて輸入されたるものとのみ見る能はざるべし。

いづれにせよ蘭學は英學佛蘭西學に先立ちて我國に傳はりしものなれば醫學自然科學等の他に蘭文經濟書は英書佛蘭西書等よりも比較的早く我國に傳はりしとの推測は靜岡師範學校東京内閣文庫其他に就て予が見出したる蘭書により必ずしも不當にあらざるべし。

又其西洋經濟學に關する書物を早く讀み學び且つ我國に傳へたるは蘭學者、長崎人又は長崎に留學したる人々(蘭學は勿論英佛獨逸語學等も長崎には早く學ばれたり)にして蘭學又後に英學佛學等を卒先勉強したる洋學者和蘭其他に留學したる人々且又江戸の開成所駿河の駿府學校靜岡學校等に關係ある人々ならずや。

然り而してアダム、スミスの名其生涯及其學說等を早く我國に傳へたるは江戸開成所藏書にして後靜岡に移され靜岡學校の藏書たりしド、ロイ民 (E. W. De Rooy) 著歐洲經濟學史 (Geschiednis der Staatshuishoudkunde in Europa) なる事は疑なき事實也これアダム、スミス生誕二百年を迎へて本論を草せし所以也。(完)

70) 福澤氏は明治六年「西洋事情」を出版せりこれ我國にて出版の最初の蘭文經濟書也而して福澤氏は米國出版の英文經濟書を原本とせしものなるが我國に西洋經濟學の傳はりしは予の發見せし處によれば既に幕末に西暦1833年(我天保四年)和蘭書出版 W. Oudshoff 氏著伊太利式(商業)經濟書が我國に傳へられ居り福澤氏長崎遊學以前(一號)に述べし處の如し  
71) 蘭文經濟書「國々經濟雜誌第三十卷一號」に述べし處の如し  
沼津兵學校の事は能日の考證を期す

